

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度技術情報第2号(クワシロカイガラムシ)について

茶樹のクワシロカイガラムシについての情報をとりまとめましたので送付します。

平成17年度技術情報 第2号
(茶樹のクワシロカイガラムシ)

クワシロカイガラムシは、第1世代の発生が前年度より遅く推移した。第1世代ふ化後の5月初旬以降晴天が続いたため、発生が増加しているため、第2世代のふ化最盛日を確認の上、適期防除に努める。

1. 情報の内容

作物名 茶

対象病害虫 クワシロカイガラムシ

(1) 発生地域 県内全域

(2) 発生時期 やや遅い

(3) 発生量 多

(4) 防除時期 第2世代幼虫ふ化最盛期 7月中～下旬

2. 情報の根拠

6月の巡回調査で発生ほ場率が62.5%(平成17年)と平成16年より高く、全地域の発生ほ場率が50%以上で、特に大隅地域においては86.7%(平成17年)と高かった。また、甚発生(寄生株率71%以上)ほ場も全地域に見られた。

表1 クワシロカイガラムシの発生ほ場率の推移 (%)

	平成17年	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7年
6月	62.5	48.0	47.0	44.0	42.0	35.0	19.0	31.0	31.0	30.0	31.0
8月	86.7	68.0	38.0	46.0	48.0	37.0	35.0	33.0	41.0	28.0	38.0
10月	50.0	75.0	59.0	63.0	60.0	45.0	52.0	31.0	43.0	36.0	32.0

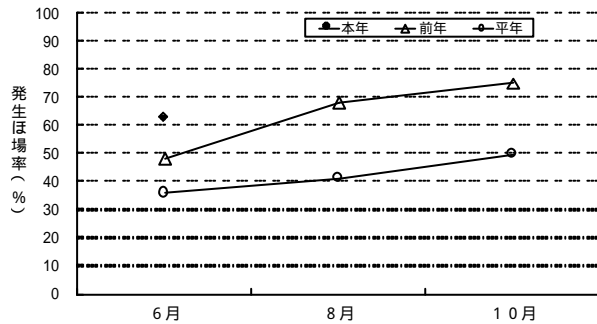


図1 クワシロカイガラムシの発生状況

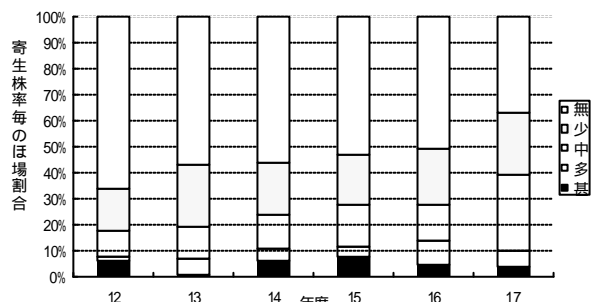


図2 クワシロカイガラムシ発生程度別ほ場率(6月)

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 定点(茶試:知覧町)のふ化最盛日は7月17日と予測されているが、地域やほ場によって異なるので、下記の方法によりふ化最盛日を確認する。
- (2) 防除は、ふ化最盛日から5日後までに、薬剤が枝や幹に十分かかるように散布して行う。
- (3) 薬剤散布時は、農薬使用基準を厳守し、摘採前や摘採中の茶園に薬剤が飛散しないよう風向き等考慮して散布する。
- (4) 第2世代のふ化最盛日に三番茶摘採等で防除できず、7月下旬以降枯れ上がりが予想される場合は、スプラサイド乳剤1,000倍による雄繭発生時期の防除も有効である。

なお、雄繭発生時期の防除適期はふ化最盛日から18～24日後で、目安としては雄虫羽化開始日±3日である。

防除適期(ふ化最盛日)の把握法

- (1) 見た目判断する方法
適期になると、雌介殻の周囲に多数のふ化幼虫が確認でき、枝や幹がピンク色に変色したように見える。
- (2) ふ化卵塊率からの判断法
雌の介殻をはがし、中にある卵塊のふ化状況から判断する。50%以上ふ化した卵塊を持つ雌成虫の割合が60～80%に達したときが防除適期(ふ化最盛日)である。